

T

T

A

K

10月20日号
地域医療連携室発行

退院後も

つなぎます

あなたの

こころとからだ

朝晩、すっかり冷え込んで、外の景色は少しずつ秋色に変わってきています。
播磨病院も秋色に化粧をしたぴかぴかの建物が皆さんにお目見えしています。
そんな病院に負けずと病院職員もグレードアップに頑張っています。



特集！有資格者に聞く！ 臨床検査科 山本佐百合さん 『消化器超音波検査士』

今回は、現在、超音波検査で活躍中の検査室の山本さんに
「消化器超音波検査士」の資格について伺いました。
山本佐百合さんよろしくお願いします。

Q: 今回の資格は、いつ取られましたか？

A: 2008年2月に試験があり、2008年4月に合格しました。

Q: それはどんな資格なのか教えてください。

A: 日本超音波学会の認定している資格です。

超音波そのものの基礎、また、消化器領域での超音波検査と病気との
かかわりを正しく理解し、より正確なデータを提供する目的があります。

Q: なぜその資格を取ろうと思ったんですか？

A: 2年前に、循環器領域の資格を得てから、腹部エコーの勉強を始めました。

始めた時から、消化器領域での資格を得ることはひとつの目標でした。又、前回の経験からも合格を目指していたので受験勉強は、毎日の臨床に大変有益であると感じていました。

資格試験は年に1回だけのチャンスですから、受けるなら1日も早いうちにと決意しました。

Q: 資格を取るまで大変だったと思いますが、何かエピソードがあれば教えてください。

A: 超音波検査の実技はなかったのですが、症例の提出も必要でありスケッチを書いたり、レポートをまとめるのが大変でした。

Q: 資格を取ってから何か変わった事がありますか？

A: 「消化器超音波検査士」という資格に恥じない検査を患者さんにしなければいけないと思うようになりました。また、それを誇りに思って検査に臨み、患者さんに関わらなければならないという自覚が一層芽生えました。

Q: 今後の抱負を教えてください。

A: 新病院になると、生体検査室として独立し、いつでも超音波検査の依頼に対応できるような体制をとって、患者さんのために頑張りたいと思います。

Q: 最後に山本さんのPRをお願いします。

A: 常に患者さんの立場になってわかりやすく丁寧な検査説明をモットーとし、検査を行うよう心掛けています。

「あの人に検査してもらえて良かったワー」と思ってもらえるような検査技師を目指しています。

患者さんの不安を少しでも和らげられるよう笑顔でお待ちしています。

山本さんどうもありがとうございました。超音波検査は痛みもなく、何度も繰り返し行える検査として需要が増えています。 今後の超音波検査士のご活躍を期待いたします。